

あきたびじょん

1. はじめに

美しく豊かな自然に恵まれた秋田県は、西は日本海に面し、海の幸に恵まれ、海に突き出た男鹿半島は、伝統行事なまはげでも知られています。県北部には、手つかずのブナ原生林が残る世界遺産・白神山地や、作家大町桂月が、「山は富士、湖は十和田湖、広い世界に一つずつ」と評した美しい十和田湖が広がっています。東部には、日本一の深さを持つ田沢湖が真冬でも凍ることなく辰子伝説とともに横たわり、岩手県との県境を縦に貫く奥羽山脈は、数々の名湯の源となっています。

また、「竿燈」や「なまはげ」など、全国最多16件の国指定重要無形民俗文化財を有しており、暮らしに根ざした独自の文化が各地域に保存されており。

さらに、全国トップレベルの小中学生の学力に象徴されるように、学校、地域、家庭が、連携して、心豊かな子どもを育てていく環境が整っています。

2. あきたびじょん

本県では、今年1月に、新たなキャッチコピー「あきたびじょん」とロゴマーク、ポスターを制作しました。

このキャッチコピーは、NHKの番組「プロフェッショナル」にも登場した本県のイメージアップ戦略アドバイザー梅原真氏のデザインによるもので、足元にある秋田の良さを県民が認識し、誇りを持って未来へ進もうという意味が込められております。

ポスターは、写真家木村伊兵衛氏の代表作「秋田おばこ」をメインポスターとして、温泉、農村、酒など10のテーマ別に作成しました。2012年3月下旬には、首都圏のJR36駅に掲示しましたので、ご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。

○ゴクラクゴクラク秋田の温泉

本県には、300を超える源泉があります。県内くまなく温泉があるため、温泉通いが日常生活に溶け込んでいる方々もたくさんおられます。全国でも珍しい箱蒸し風呂、岩盤浴、滝や川がそのま



「秋田おばこ」



「ゴクラクゴクラク秋田の温泉」



「楽しき農村」



「酒は秋田だべ」

秋田県知事 ^{さ たけ} 佐竹 ^{のり ひさ} 敬久



ま温泉になっているものなど、野趣あふれる情緒も魅力です。山懐に抱かれ、せせらぎを聞きながら、あるいは、日本海の夕日をゆっくりと眺めながら、みなさまにもゴクラクを堪能していただきたいと思います。

○楽しき農村

本県の食料自給率は175%で、北海道に次ぐ全国第2位を誇り、わが国の食料基地となっています。あきたこまちなど「美人を育てる秋田米」は世界に誇るブランドであり、農家の女性たちが取り組む農家民宿・レストラン・農産加工数も全国トップクラスです。

風土が育んだ多種多様な鍋物や発酵食品のほか、比内地鶏、稲庭うどん、畑のキャビアと称されるとんぶり、不思議な食感のジュンサイなど、奥深く滋味豊かな秋田の食の醍醐味を、味わっていただきたいと思います。

○酒は秋田だべ

米の国秋田は、酒王国でもあります。連綿と続く酒蔵を支えてきたのは、米を熟知した蔵人たちです。うまい米と味わい深い人々が醸す銘酒の数々、ふわりとした果実香のあるものから、どっしりとした辛口の男酒、その多彩なラインナップをお楽しみいただきたいと思います。

3. あんべいいな秋田県

昨年3月の東日本大震災を契機に、これまでの経済最優先の物質社会への反省から、調和のとれた暮らしや心の豊かさに価値を見出すようになってきているように感じております。

このような時代にあって、秋田には、自然を慈しみ、人と人との強い絆の中で、助け合って暮らすという日本本来の良さがまだ色濃く残っております。そうした姿を「ちょうどいい」を秋田弁で表す「あんべいいな」に込めて、足元にある「本当のユタカさ」や「忘れかけている日本の美しさ」を全国のみなさまに発信してまいりたいと考えております。



4. おわりに～DC（デスティネーションキャンペーン）国民文化祭の開催～

来春には、秋田新幹線こまちに新型車両が導入されます。その年の秋には、美しい茜と銀に彩られた新型車両E6系が、黄金色に輝く豊かな稲穂の波を駆け抜けて秋田駅に到着する頃、全国のJRグループとのタイアップによる国内最大規模の観光キャンペーン「デスティネーションキャンペーン」が本県で実施されます。

また、平成26年には、本県を会場に100万人規模の人が動くと言われる国民文化祭が1ヵ月間に渡って開催されるなど、全国規模のイベントが続きます。

全国のみなさまには、この機会に是非、秋田にお越しくださいますよう心からお待ちいたしております。